学校運営協議会　会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第８条第１項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

１　会 議 名　　岐阜総合学園高等学校　学校運営協議会　（第３回）

２　開催日時　　令和６年１月１７日（水）１４：００～１５：４０

３　開催場所　　岐阜県立岐阜総合学園高等学校　会議室
開催にあたり、「地域産業の担い手育成総合戦略事業合同発表会」において行う「環境テクノロジー系列」「観光ビジネス系列」「生活福祉系列」の生徒発表を実施した。

４　参加者

会　　長	神谷　政人	（社）中部地域づくり協会
副 会 長	熊田ますみ	平成医療短期大学教授
委　　員	早瀬　雅彦	須賀地区兼須賀東地区自治会長
	長屋　恭一	同窓会会長
	菊池　啓子	中部学院大学短期大学部教授
	徳村　恵子	ＰＴＡ役員（副会長）
	岩田　好弘	ＰＴＡ役員（副会長）
学校側	片岡　潤子	校長
	宇佐美理恵子	事務部長
	伏見　圭太	教頭
	籠橋美和子	教頭
	福井　恵梨	総合企画部長
	川口　智慎	教務主任
	山田　祐治	生徒指導主事
	柳瀬　智裕	進路指導主事

５　会議の概要（協議事項）

（１）　総合企画部　今年度の取組及び反省

意見１：今年度は総合企画部をはじめ、色々なところで学校のＰＲに取り組んでいることがよく伝わった。積極的に本校総合学科の魅力を発信していく先生方の取組に加え、生徒による素晴らしいプレゼンテーションの結果、本校の魅力が中学生や外部に伝わっている。今後も引き続き取組を継続していただきたい。

意見２：先生方が一生懸命取り組んでいることに対し、頼もしく感じた。本年度の新たな分掌である総合企画部では多くの活動をしてきたが、最も成果があがった取組は何か。
⇒総合学科の特色を生かすために教育課程を見直し、幅広い進路希望に対応するために、系列ごとに進路希望に応じた科目選択のモデル図を、生徒に分かりやすく提示したことが最も良かったと考えている。２年後に、今の１年次生が希望する進路を実現し、成果が現れるとよい。

（２）教務部　今年度の取組及び反省

（３）生徒指導部　今年度の取組及び反省

意見１：ＭＳリーダーズの人数について、今年度は１３０名が登録したとのことだったが、例年に比べて増えたのか、それとも例年並みか。
⇒多くが部活動単位で登録しており、部員数によっても変わるが、だいたい毎年このくら

い参加している。部活動以外の生徒も若干名参加している。

意見２：特に交通事故が減ったことは良かった。安全に学校に来られるのは、とても大切なことだ。

意見３：交通事故の激減については、先生方の指導の成果ですばらしい。
生徒の安全面について、地域でも事故がないように常々心がけており、事故があった交差点への一時停止線の設置について警察に相談した。
高校生がスピードを出して走っていて危ないという声が地域からあがっており、今後も指導をお願いしたい。

意見４：家にヘルメットが買ってあり、親としても安全のためかぶらせたいが、子どもはかぶらない。他校の生徒もあまりかぶっていないようだが、中にはかぶっている生徒が多い学校もあるようだ。ヘルメット着用についてはどのようになっているか。
⇒本校の生徒は３０名～４０名着用しているが、着用率は上がっていない。現在、ヘルメットの着用は努力義務となっており、完全に強制するわけにいかないが、粘り強く訴え続けるしかない。

意見５：欠席が増加しているとのことだが、中学校でも不登校の生徒が増えているようだ。原因としてどのようなことがあるのか。
⇒人間関係やコミュニケーションの問題が多いことは確かである。友達ができないとか、友達に声をかけづらい、という声が聞かれる。教育相談も含め全職員で、元気に登校できる雰囲気を作りたい。

（４）進路指導部　今年度の取組及び反省

意見１：大学進学に関して、チャレンジすることが少ないとの説明があったが、それが悪いとは言えないのではないか。大学では、学力が低く途中でやめていく生徒が多い。学校の先生に勧められて入学し、モチベーションが低いケースもある。

意見２：系列と就職先との関連性は７２．４％と説明があったが、どのような傾向か。
⇒関連性は若干減り気味ではあるが、概ね変わらない。一生懸命学習してきて希望が変わったというケースもあり、希望が変わるのが一概に悪いわけではないと考えている。

（５）その他

意見１：地域産業の担い手育成について、発表した生徒達のプレゼンテーション能力の高さに驚いた。飽きさせることなく、楽しませてもらった。こんな楽しい実習だったのだな、と感心した。多様化する子ども達に対応しているところがこの学校のよいところである。

意見２：生徒がのびのびとユニークな発表ができるのは、非常に素晴らしく、子ども達が生きやすい学校の環境が反映されているのだと思う。

意見３：生徒の発表は、どんなことを学んでいるかといった要点も押さえており、大変楽しく聞かせてもらった。この先どうなるか分からないブーカの時代、いちばん大切なのはコミュニケーション能力だが、こうして生徒達が自ら考えて行動を起こしていけば、ますます生きる力がついてくると思う。ただ、生徒によって差があり、中にはコミュニケーションの苦手な生徒もいる。
総合学科は選択科目が多いため、クラスでの生徒同士のつながりが少なくなる一方、一番強いのは部活動のつながりだと思う。それぞれの生徒がどこかに居場所を作りつつ、精一杯力を発揮できるようにしていただけるとよい。

６　まとめ

第３回学校運営協議会では、生徒のプレゼンテーションや各分掌長の報告をふまえ、全委員より活発な意見や質問をいただくとともに、今年度の学校の取組および反省について理解が得られ、評価していただいた。今年度の課題を踏まえ、今後更に充実した特色ある教育活動を実践し、地域の方や保護者等多くの方に対し本校の魅力を発信していきたい。